

# [宗福寺板碑(東松山市)]見学レポート

左手に曲がると宗福寺がある





さまざまな供養塔





宗福寺山門





「宗福禅寺」とある







本堂









「洗心閣」とある



庫裡玄関か



この駐車場の後ろに板碑がある



南北朝期の板碑である/中世においては時宗の拠点であったようである/勝氏の館跡に隣接して建立されたとある



坂戸市指定考古資料

石井宗福寺の板石塔婆

(文和五年銘 開山教覚三回忌供養名号板碑)

指定年月日 昭和五十五年三月十三日

所在地 坂戸市大字石井一九〇五

宗福寺の開山教覚の三回忌に造立されたこの名号板碑は、文和五年(一一三五六)七月二十八日の紀年銘をもつ地上高二八〇センチ、幅六七センチという巨大なもので材質は緑泥片岩である。

六字名号板碑の密集地としては県下でもめずらしい勝呂地区にあって、この板碑は大きさといふ風格といい、まさに代表的な逸品といえよう。

宗福寺は平安末期以来この地を領した勝氏の館跡に隣接して建立されたが、地元豪族の庇護を受けた遊行の聖がこの地にとどまり、鎌倉末から南北朝期に道場を設けて多くの民衆に念仏を広めたと考えられる。

その意味でも今後、一遍上人の開いた時宗の発展を研究する上で、この板碑のもつ意味は極めて大といえよう。

昭和五十七年二月一日

坂戸市教育委員会



正面が六字名号板碑(板石塔婆)/勝氏と浄土信仰の関係を物語る資料となっているという



駐車場となっていて、見学者に配慮が足りないのは残念である



さまざまな石造物





可唾齋焼香師記念とある



隣接して幼稚園を経営している



参考ホームページ

<http://michis27.main.jp/sakado-KD-folder/sakado-KD3.html>



